

二〇二四年度 第二回 入学試験問題

国語 (50分)

〈注意〉

- (一) 開始のチャイムが鳴るまで、この冊子を開いてはいけません。
- (二) 問題は1ページから33ページに印刷されています。
- (三) 受験番号と氏名は解答用紙の定められたところに記入しなさい。
- (四) 解答はすべて解答用紙の定められたところに記入しなさい。

受験番号		

教育とは、本来、もつと未知なものへの畏怖を伴うものであるべきでしょう。この世で知られていることより、知られていないことのほうが多いはずだからです。

江戸時代、武士の子弟が小さい頃から、返り点をつけただけの漢籍を内容がよく分からないまま素読させられたのは、現在の教育とは正反対の極にあります。

子供は何のために素読をするのか、まず分かりません。ただ声を出すだけで、意味も分からないままです。しかし何十回と繰り返していくうちに、漢文^④ドクトクの抑揚が身につけてきます。漢字の並びからほんやり意味が掴めるようにもなります。

この教育には、教える側も教えられる側にも、分からないことへのいらだちがありません。分からなくてもいいのです。子供は、言われるがままに何回も音読を繰り返します。つかえつかえ読んでいたものが、いつの間にかすらすらと読めるようになり、

一方の教える側も、手取り足取りは教えません。ゆっくり構えています。その漢籍が自分にまだ理解できないような、深い内容を含んでいるのかもしれませんが。教える者自身に充分に分かっていない可能性もあります。それでも教える素材に^④ケイアイの念をいだいているのは確かです。子供に音読させながら、自分もその文章の背後にある真実を見極めようとしているのかもしれない。

ここには、^④そもそも土俵としての問題設定がありません。ひたすら音読して学ぶだけです。さらに言えば、学びの先にあるものも、判然としません。簡単に言えば、素養でしようか。たしなみです。現代風な表現では教養です。

素養や教養、あるいはたしなみは、問題に対して早急に解答を出すことではありません。^⑤むしろ反対かもしれません。解決できない問題があっても、じっくり耐えて、熟慮するのが教養でしょう。

そうになると、今日の学校での教育がどこか教育の本質から逸脱しているのが分かります。

もう三十年以上も前、私は精神医学を学ぶために南仏のマルセイユに住んでいました。恩師のムーラン先生が、かつての自分の自宅兼診療所を無料で貸してくれたので、かなり広い家でした。私たちの住まいは建物の二階全体を占めていて、ベランダから中庭に降りて行く階段があり、その中庭も、私たち一家の占有物になっていました。このたたずまいは、『ヒトラーの防具』で、主人

公が住む家として描出びやうしゅつしています。「ヒトラーの防具ぼうぐ」は」
筆者帯木達生の著作

長男は小学一年、次男は幼稚園に通っていたのです。フランス語が分からなくても、どうせ一年生ですから、必要になったら、その場で覚えればいいというくらい、学校のホウシン⑤はゆるやかでした。

そもそも、就学のために近くの小学校に行ったその日から、「はいそれでは、お子さんを預ります」だったのです。この鷹揚おつようさと大胆だいたんさには、⑥ B を抜ぬかれました。

あるとき、長男が友人を家に連れて来ました。マルセイユは多人種の集まりで、北アフリカのアラブ系の人やアフリカからの黒人、それに東南アジアの旧フランス領からの移民も多く、人種の坩堝ぶつぼ「多様な民族が混在し」「て暮らしている場所」と言つていい町でした。

そのとき家に来た長男のクラスメートは、大半がアラブ系の子弟でした。驚いたのは、そのうちのひとりおどろが、大人顔負けの背丈せたいちをしていたからです。普通なら、小学六年か中学生の体格です。不思議に思つて訊きくと、覚えが悪いので、一年生を何年かやってるという返答でした。⑦ 悪わるびれもせず、明るく答えたので二度驚いたくらいです。

そうかマルセイユの小学校は、落第があるのだと感心しました。日本でなら子供が落第させられたとなれば、親が学校に乗り込んでいくでしょう。

学習の速度が遅おそい者は、その学年を何度でも繰り返す。考えてみれば、これが当然のやり方です。それぞれ、人によつて学習速度に差が出るのは当然です。早く覚えてトントン拍子で進級したあと、頓挫とんざする学生もいれば、スタートは遅くても、いったんのみ込んでしまえば、あとは学習が円滑えんかつに進んで、追おい越こす子もいるでしょう。

本来、教育というのはそれが本来のあり方ではないでしょうか。

ところが、今日の教育は画一的です。横並びで一年一年を足並揃そろえて、上級学年に上がつていく体制になっています。

その結果、採用されたのが到達目標とうたつとその達成度です。その到達目標も、個々人に合つた目標ではありません。あくまで一年毎ごとの建前としての到達目標です。私は学校教育が到達目標を設定したときから、学校が変質したような気がします。

小学一年はこれこれ、小学三年はこれこれという具合に、目標が決められると、必ず落ちこぼれが出ます。⑧ 市民マラソンと同

じで、遅れた走者は車が拾っていきます。何時間も道路を封鎖できないからです。

車に拾われた子供はどうなるのでしょうか。次の年のマラソンでも、やはり車に拾われて、とうとう小学校を卒業するまで、毎年車に拾われる六年間を過ごします。中学校でどうなるかは、もう自明です。これでは、学校が苦業の場となる子供が出てても仕方ありません。

ところでん式の進級と進学に **C** をかけているのが、試験です。この試験突破こそが、学習の最終目標と化してしまうと、たしなみ、素養としての教育ではなくなります。問題解決のための学習、勉強になってしまふのです。

⑩ こうした教育の現場に働いているのは、教える側の思惑です。もっと端的に言えば「欲望」です。教える側が、一定の物差しを用いて教え、生徒を導くのです。物差しが基準ですから、そこから逸したさまざまな事柄は、切り捨てられます。何よりも、教える側が、問題を狭く設定してしまっています。そのほうが「解答」を手早く教えられるからです。

しかしここには、何かが決定的に抜け落ちています。世の中には、そう簡単には解決できない問題が満ち満ちているという事実が、伝達されていないのです。前述したように、むしろ人が生きていくうえでは、解決できる問題よりも解決できない問題のほうが、何倍も多いのです。

そこでは教える側も、教えられる側も視野狭窄に陥ってしまっています。無限の可能性を秘めているはずの教育が、ちっぽけなものになっていきます。もう素養とか、たしなみでもなくなってしまう。

この教育の場では、そもそも解決のできない問題など、眼中から消え去っています。いや、**D** 解決できても、即答できないものは、教えの対象にはなりません。

教育者のほうが、教育の先に広がっている無限の可能性を忘れ去っているので、教育される側は、閉塞感ばかりを感じとってしまいがちです。学習の面白さではなく、白々しさばかりを感じて、学びへの興味を失うのです。

学べば学ぶほど、未知の世界が広がっていく。学習すればするほど、その道がどこまでも続いているのが分かる。あれが峠だと思つて坂を登りつめても、またその後ろに、もうひとつ高い山が見える。そこで登るのをやめてもいいのですが、見たからにはあ

の峰に辿りついてみたい。それが人の心の常であり、学びの力でしよう。 E、答えの出ない問題を探し続ける挑戦こそが教育の真髄でしょう。

教育の現場が視野狭窄に陥っているため、親はそれ以上に視野が狭くなっています。学校の課題だけを早くこなすように、子供に強制しがちです。早くやりなさい、ぐずぐずしないで宿題を先にしなさい。これが口癖になります。

学習と言えば、学校の課題、塾の課題をこなすことだと、早合点してしまいがちです。世の中には、もつと他に学ぶべきものがあるのに、親はそれを子供に伝えるのさえも忘れてしまいます。

星の美しさ、朝日や夕日の荘厳さ、木々の芽ぶきの季節のすこやかさ、花々の名前や木々を飛び交う鳥の姿と鳴き声も、まず大人は感受性はとらえられなくなっています。子供に伝えられるはずがありません。

美術館で、ひとつの絵や彫刻を前にしたときの感動も、大人が関心を持っていなければ、子供が感動を覚えるはずがありません。まして、音楽や美術には、問題設定もその解決もありません。 F、解決できない宙ぶらりんの状態で、その芸術家が何と

かして自分なりの仮の解答をさし出したのが芸術だからです。芸術には、問題解決という課題が課せられていないので、学習がまだその本質を失っていません。見た者、聞いた者は、何かを感じ、生の喜びを実感します。人生の無限の深さに感動するのもできません。

詩もそうでしょう。詩はそもそも、何かを解決するため、結着をつけるために書かれるものではありません。音のつながり、意味の連関を味わい、感動するものです。

孔子の言行を集録した『論語』は、およそ三分の一が芸術論になっているそうです。論じられているのは、絵画、詩、演劇、音楽で、真の人間になるためには、芸術を学ばねばならないと強調されていると言います。

おそらくそれは、わけの分からないもの、解決不能なものを尊び、注視し、興味をもって味わっていく態度を養成するためのものかもしれません。崇高なもの、魂に触れるものというのは、ほとんど論理を超越した宙ぶらりんのところにあります。むしろ、人の生の本質は、そこにあるような気がします。

【問1】

① a) b) c) のカタカナを漢字に改めなさい (楷書で、ていねいに書くこと)。

- ② a) デンジユ b) フシメ c) ドクトク d) ケイアイ e) ホウシン

【問2】

① 「保育士や先生がすべてをお膳立てして、幼児はそれに乗っかっていけばいいのです」とありますが、どういうことですか。次の中から最も適当なものを選び、(ア) (イ) (エ) の記号で答えなさい。

(ア) 園児たちが先生の指示にしたがって言われたとおりのことをこなしてさえいけば、教育の目的は十分に達成されると思われる、ということ。

(イ) 園児一人ひとりの自由な発想に先生の創意工夫が加わることによって、幼児期における理想の教育が実現すると勘違いされている、ということ。

(ウ) 先生がさまざまな知識を教え込もうとするために、園児たちの健やかな成長が妨げられてしまっているかのように誤解されている、ということ。

(エ) 先生が先回りして準備を整えたプログラムに園児はすなおにしたがうが、それは園児たちが本当に望んでいることだとは限らない、ということ。

【問3】

A

の順番を解答欄の指示にしたがって(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

- (ア) この「早く早く」は学校だけでなく、家庭にも浸透しています。
- (イ) しかも、問題解決に時間を費やしては、賞讃されません。
- (ウ) 平たい言い方をすれば、問題解決のための教育です。
- (エ) なるべくなら電光石火の解決が推賞されます。

【問4】

②「ここに迅速さの落とし穴があります」とありますが、「ここ」における「迅速さの落とし穴」とはどういうことですか。次の中から最も適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

- (ア) いくら思いやりをもって「早く早く」と急かす声をかけたつもりでも、どうしても死を心待ちにする気持ちが表に出してしまう、ということ。
- (イ) たしかに「早く早く」と急かされる高齢者をよく見かけるが、結局のところその声かけは息子や娘のストレス発散でしかない、ということ。
- (ウ) そもそも「早く早く」と急かすと失敗が増えるので、あえて気長に待つことによって結果的に物事を早く進めることができる、ということ。
- (エ) もちろん死をせまる意味合いで「早く早く」と急かしているわけではないが、はからずもそういう意味を含んでしまっている、ということ。

【問5】

——③「こうなると解答は、そもそも机上きじょうの空論になります」とありますが、どういうことですか。次の中から最も適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

(ア) 誰だれでも答えられるような問いを立てようとするあまり、身近な問題ばかり取り上げることになってしまい、考えること自体がほとんど意味のないものとなってしまいがちである、ということ。

(イ) 現実の複雑さから目をそむけて問いを設定した結果、問いそのものが的外れなものとなってしまっているので、当然のことながらその答えも見当けんどうが違いのものとならざるを得ない、ということ。

(ウ) すばやく答えを出すことにはかり価値が置かれることで、問いについてじっくり考えることが軽視されてしまい、根拠こんきょのない思いつきのような解答ばかり目立ってしまったている、ということ。

(エ) ありきたりな答えが導かれる問いにばかり接しているため、現実げんじつ離れた事柄ことがらにも疑問を覚えることがなくなり、残念ながら同じような発想の人ばかりが世の中にあふれている、ということ。

【問6】

——④「そもそも土俵どひょうとしての問題設定がありません」とありますが、どういうことですか。次の中から最も適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

(ア) 問いの意味を共有する知性が身につけておらず、学ぶことの意義についての認識にんしきも不十分である、ということ。

(イ) 問われていることの重要性を認識せず、ただひたすら言われたことをやらされているに過ぎない、ということ。

(ウ) 問題を解決しようとする発想はなく、純粹じゆんすいに作品のすばらしさを味わいたいという意欲いよくしかない、ということ。

(エ) 早急さうきゅうに解決すべき問題は存在せず、何のために学んでいるのかすらわからないような状態にある、ということ。

【問7】

⑤「むしろ反対かもしれませんが」とありますが、どういうことですか。次の中から最も適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

(ア) 「素養や教養、あるいはたしなみ」とは、選り好みなどせず、この世に存在する多種多様な事物をあるがままに受け入れようとする姿勢を示したものである、ということ。

(イ) 「素養や教養、あるいはたしなみ」とは、すぐには答えの出せないような問いに直面したとき、何かしらの教訓を見いだそうとする発想に基づいたものである、ということ。

(ウ) 「素養や教養、あるいはたしなみ」とは、生きていくうえで必要かどうかかわからないような事柄についても深く感じ入り、味わおうとすることそのものである、ということ。

(エ) 「素養や教養、あるいはたしなみ」とは、物質的豊かさの追求をやめて自分らしく生きること、精神的豊かさを手にしようとする営みを意味するものである、ということ。

【問8】

⑥「B」を抜かれました、⑨「C」をかけている」とありますが、B、Cに当てはまる語を(ア)～(オ)の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。また、「B」を抜く、「C」をかける」の意味として適当なものを(カ)～(コ)の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

語

(ア) 群ぐん

(イ) 輪

(ウ) 命

(エ) 度肝とぎま

(オ) 手間

意味

(カ) ひときわすぐれていること。

(キ) とてもびつくりさせること。

(ク) 死をいとわずに立ち向かうこと。

(ケ) じっくりとものごとに取り組むこと。

(コ) 程度をいっそうはなはだしくすること。

【問9】

——⑦「悪びれもせず、明るく答えたので二度驚いたくらいです」とありますが、二度目に驚いたときの筆者の様子を説明したものと最も適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

(ア) 息子の友人が人に知られたくない事柄についても誇らしげに語ったことに驚きつつも、みんなと同じであることを強いる日本の教育制度は間違っているということを確認し、危機感を抱いている。

(イ) 息子の友人が一年生を繰り返しているという事実を堂々と口にしたことに驚きつつも、フランス語が理解できない息子もいずれば同じ状況におちいってしまうのではないかと思い、心配している。

(ウ) 息子の友人が現状に対して少しも恥じるようなそぶりを見せないことで、日本社会の常識からはかけ離れた価値観を子ども自身が身につけているということがわかり、驚きつつも感じ入っている。

(エ) 息子の友人が覚えの悪いことについて開き直った態度を示したことで、ヨーロッパで生活している移民の子どもたちの厳しい生活環境を目の当たりにすることになり、驚きつつもとまどっている。

【問10】

——⑧「市民マラソンと同じで、遅れた走者は車が拾っていきます」とありますが、この表現はどのような状況をたどえていますか。次の中から最も適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

(ア) 学習内容について理解が及んでいない生徒に対して補習を行い、必要最低限の学力を保障すること。

(イ) 学齢に応じた到達目標に達していなかったとしても、強制的に次の学年へと進級させてしまうこと。

(ウ) 勉強が苦手な生徒には早めに見切りをつけさせ、スポーツなど勉強以外の分野に取り組ませること。

(エ) 授業中にわからないことがあったとしても、塾や予備校に通わせて効率的に学力を上げていくこと。

【問11】

——⑩「こうした教育の現場に働いているのは、教える側の思惑おもわくです」とありますが、どういことですか。次の中から最も適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

(ア) 目標を達成させたいという思いから、試験にかかわらない内容を無駄むだなものとして省き、効率を重視した教育活動を推し進おめている、ということ。

(イ) 注目を集めたいという一心で、わかりやすくおもしろい授業を實施じっしすることばかり気をとられ、複雑な問題もんだいを単純化して教えている、ということ。

(ウ) 優秀ゆうしゅうな先生という評価を得ようと努力した結果、あらかじめ手取り足取り教えずでしまつて、生徒たちの考える余地をうばっている、ということ。

(エ) 生徒の成績を高めたいという使命感から、かえって数字にあらわれた結果ばかりが気になって、生徒の実態に見合わない指導をしている、ということ。

【問12】

D 〃 F に当てはまる語の組み合わせとして適当なものを次の中から選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

(ア) D—さらに E—まるで F—きつと

(イ) D—やがて E—だから F—しかし

(ウ) D—かりに E—ただし F—やはり

(エ) D—たとえ E—つまり F—むしろ

【問13】

①「人生の本質は、そこにあるような気がしますが、これに関する次の説明文を読み、a

に当てはまる言葉をそれぞれ選び、(ア)～(シ)の記号で答えなさい。

これまでの日本の教育は「ポジティブ・ケイパビリティ」を養成することに力を注いできた、と筆者は言います。たしかに、aに基づいた教育活動を行う日本の学校では、丸暗記した知識を素早くはき出すことのできる生徒が優等生と見なされます。しかし、教育は覚えた知識を素早くはき出すための訓練の場ではないはず。むしろ、教育の本来の役割は、物事と真摯しんしに向き合い、じっくりと考え続けるためのbにあるのではないのでしょうか。

考えてみれば、人生は他者との関係性や自分の将来のことなど、問いを立てることすらままならず、答えもすぐにはわからないような未知の事柄であふれています。そのような事態に直面したとき、すぐに問いを立てて、答えを得ても何の意味もありません。そこで得られるのは、cにすぎないからです。

芸術というものは、それに触れる人々が世界の奥深おくぶかさにdを秘ひめています。しかし、それを味わうためには、じっくりと時間をかけることが必要です。教育もそれと同じです。役に立つか立たないか、丸暗記した知識をいかに早くはき出せるか。本当に大切なのはそんなことではありません。先行き不透明ふとうめいで、将来の予測が困難な時代を生きる子どもたちには、この本のタイトルである「ネガティブ・ケイパビリティ」、つまり、eにたえる力が求められます。それゆえ、筆者は『論語』の芸術論に触れながら、fは理屈を超えたわけの分からないところにあるのかもしれない、と言うのです。

- | | | | |
|-----------|------------|-------------|--------------|
| (ア) 安易な解答 | (イ) 抵抗する意志 | (ウ) 感動する可能性 | (エ) 欧米諸国との比較 |
| (オ) 批判的意見 | (カ) 人生の醍醐味 | (キ) 自然を愛する心 | (ク) 答えの出ない事態 |
| (ケ) 平和的解決 | (コ) 画一的な計画 | (サ) 姿勢を養うこと | (シ) 知識に対する情熱 |

II

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

「わたしはこの夏を西武に捧げようと思う」——一学期の最終日に、成瀬あかりはそう宣言した。大津市唯一のデパートである西武大津店が、四十四年間の歴史に幕を閉じ、八月三十一日に営業を終了する。そして、びわテレの番組『ぐるりんワイド』は、八月になったら西武大津店からの生中継を行うことになっていた。成瀬あかりは、中継の初日となる八月三日から毎日、西武大津店に通い、『ぐるりんワイド』の中継映像に自分の姿が映り込むようにしようと思決意したのである。

週明けの八月十七日、お盆休みだった部活が再開された。朝九時から十一時半までの気楽なものだ。

「みゆき、この前テレビに映ってなかった？」

同じ部活の遥香が話しかけてきた。

「うん。成瀬に付き合ってる」

遥香は「大変だね」と笑った。

「わたしも見たよ。金曜日だよな？ 西武の写真展のやつ」

瑞音も話に入ってきた。

「え、わたしが見たのは入口の前だったけど。野球のユニフォーム着てたよね？」

そうだ、^①わたしはなぜこのことに気付かなかったのか。日常的に見ていなくても、たまたまぐるりんワイドにチャンネルを合
わせることはあるだろう。二人が見たのは一瞬ずつでも、パズルのように組み合わせればわたしのしていることがバレてしまう。

「ほぼ毎日行ってるの。成瀬と」

成瀬に責任を押し付けようとしているが、ユニフォームを着て付き合っているのはわたしの意志である。ドン引きされるかと思

いきや、遥香と瑞音は大笑いした。

「毎日中継してるなんて知らなかった！ わたしも行ってみたい」

「わたしも行く」

仲間が増えてうれしいはずなのに、わたしは気が乗らなかつた。成瀬モードと部活モードでは力の入れ方が違うのだ。だからといって二人を拒絶するわけにもいかず、番組が十七時五十五分からはじまることと、中継場所はたいてい正面入口前だが、正確な場所は当日行ってみたいとわからないことを伝えた。

今週は適当にサボるつもりだったが、遥香と瑞音が行くとなればわたしも行かざるを得ない。少し早めに着くと、正面入口前に撮影クルーがいてほっとした。成瀬は宣言どおり、ライオンズの野球帽をかぶっている。これをくれたご婦人がテレビで見ているといいなと思った。

「さつき、また知らない人からこれを渡された」

成瀬は左手首につけた青いリストバンドを見せた。

「めっちゃライオンズ好きな人みたいじゃん」

「西武ファンであることは間違いない」

そう言ってミニバットを構える。

「今日、バド部の子が来るかもしれない。わたしと成瀬が毎日来てること話したら、行ってみたいって」

成瀬は興味なさそうに「そうか」と言うだけだった。

遥香と瑞音は中継の直前に店内から出てきた。成瀬はすでにカメラに集中している。

「ここでやってたんだ」

二人がわたしのそばで足を止めたので、ソーシャルディスタンスを取るよう促した。ここで密になってしまつては明日以降の中継が打ち切られてしまう可能性がある。

遥香と瑞音が少し離れた場所にポジションをとると、レポーターが二人にマイクを向けた。わたしは驚きを隠せなかった。全身から西武愛を発信している成瀬ではなく、私服姿の女子中学生二人組に話しかけるとは。遥香と瑞音は笑顔で質問に答えている。わたしと二人の間に分厚いアクリル板が出現したかのようだった。

中継が終わり、帰り支度をする。遥香と瑞音は「話しかけられちゃった」と興奮気味に報告してきた。② 胃のあたりから嫉妬がせり上がってくるのがわかる。「よかったね」と素っ気なく言っつて、成瀬と一緒に帰路についた。

「成瀬のほうがインタビューされるべきなのに」

わたしが本音を漏らすと、成瀬は笑った。

「そんなことない。テレビ局はああいう女の子のコメントが欲しかったんだ」

強がりではなく、純粹に受け入れているようだった。その冷静さに腹が立つ。

「せっかくだからインタビューされたいとか、もつと映りたいとかないの？」

成瀬は「ない」と即答する。なぜわたしがこんなにムキになっているのかわからない様子だ。わたしは成瀬を取り残し、早足で帰った。

八月十八日、一晚寝たら気持ち切り替わり、遥香と瑞音とはいつもどおり接することができた。きのうの顛末について「まさか話しかけられるとは思わなかったね」と話したあと、わたしが極力軽い調子で「また行く？」と尋ねると、二人は「もういいかな」と笑った。

わたしも「もういいかな」に気持ち引きずられ、その日は西武に行くのをやめた。なんとなく成瀬に会いたくない気持ちもあった。中継は正面入口前からで、成瀬は14と書かれたカウンタダウン表示の隣にいる。③ 当然インタビューのマイクは向けられない。

成瀬のように毎日通っているわけでもなく、遥香や瑞音のようにインタビューされるわけでもない。そんなわたしが行く必要があるのだろうかと考えたら嫌になってしまった。

八月二十一日、中継帰りの成瀬が訪ねてきた。

「どうだった？」

成瀬に訊かれて、「テレビを見てほしい」という当初の依頼を思い出した。わたしが行かなくても、成瀬は気に留めていなかったに違いない。

「ちゃんと映ってたよ」

例によってわたしも毎日見ていた。見なくていいかと思っても、十七時五十分になると **A** ぐるりんワイドの時間だと気付くのだ。

中継は六階からで、ロフトのファイナルバーゲンの様子を伝えていた。成瀬はほかの客の視線を集めながら **B** 映り込んでいた。

「金曜日は館内から中継するのかもしれない」

その法則でいくと、来週の金曜日も館内からである可能性が高い。

「来週から学校だけど、部活ある日はどうするの？」

「間に合うように抜けさせてもらう。ユニフォームも全部持っていて、学校から直行する」

C 成瀬は誰からも咎められずに最終日まで遂行するのだろう。

「大変だね」

すっかり他人事のように感じる。部活は十八時までだから、途中で抜けてまで中継に行くつもりはなかった。

「わたしもリアタイでは見られなくなるけど」

「構わない。これまで付き合ってくれてありがとう」

成瀬はそう言い残して帰っていった。④ 自分から下りたはずなのに、成瀬に外されたような気持ちになる。

日曜日の午後、テレビをザッピングしていると、西武対オリックスの試合が放送されていた。なんとなく見る気になって、リモコンを置く。父に「みゆきも野球見るようになったのか」と突っ込まれ、「今日だけね」と適当に返答する。

西武の選手たちは成瀬とわたしに着ている白いユニフォームではなく、紺こんのユニフォームを着ていた。六回表、打席に立ったのは背番号1番の栗山くりやまである。ぐるりんワイドの中継に映り込む成瀬の姿と栗山が重なる。栗山のバットは初球をとらえ、打球は客席へと入っていった。野球のルールに詳しくないわたしでも、これがホームランであることはわかる。栗山は精悍せいかんな顔立ちで、サッカー部の杉本すぎもとくんに似ていた。

八月二十四日は二学期の始業式で、部活は休みだった。隣の席の川崎かわさきくんは「おまえ西武のユニフォーム着てテレビに出てたな」と指摘しでさされた以外、特筆すべきことはなかった。

「成瀬はクラスの人から『テレビ出てたね』とか言われなかった？」

「言われなかった。本人に言うのはごく一部だから、気付いてる人はいるだろう」

たしかにわたしもあまり話したことがないクラスメイトがテレビに出ていてもわざわざ言いに行かない。

「今日、わたしも行っていい？」

明日からは部活で帰りが遅おそくなるため、わたしにとっては最後のチャンスになる。許可を取る必要もないかと思いつつ尋ねると、成瀬は「もちろん」と答えた。

代理エゴサーチを忘れていたことに気付き、帰宅して「Wife」けんさく検索をした。最初にライオンズ女子と呼んでくれたタクローさんはその後も何度かわたしたちに言及げんきやうしている。草津くさつに住む主婦の「西武ユニの子、私がぐるりんワイド見ると毎回出てるけど毎日来てるのかなw」というつぶやきもあった。

番組開始十分前に西武大津店正面入口に着くと、成瀬は「あと8日」と書かれたカウントダウン表示を難しい表情で見っていた。

「このままだと最終日が『あと1日』になるが、本来『あと0日』になるべきではないだろうか」

言われてみればそのとおりだ。しかしこんなに堂々と間違えているわけがない。仮に間違いだとしても、明日いきなり二日減らすわけにはいかないだろうと話し合っていたら、五歳さいぐらいの女の子が近づいてきた。

「野球のおねえさん、今日はふたりいるね！」

女兒はわたしに紙を差し出した。見ると、同じ服装の人物がふたり描かれていた。片方は青い帽子をかぶっていて、片方はかぶっていない。母親らしき人物は「テレビでいつも見てるんです」と言う。わたしが反射的に「ありがとうございます」と応えようと、女兒は「ばいばい」と手を振って母親と店内に入ってしまった。いつも見ていると言いなながらこの時間に西武にいるのは変じゃないかと思いつつ隣に視線を移すと、^⑤成瀬の目が潤んでいたのでぎよつとした。

「こんなことあるんだな」

わたしは成瀬にファンアートを渡した。成瀬はそれを大事そうにリュックにしまい、ミニバットを持って正面を向く。今日はファイナルバーゲンに来た母娘と思われる女性二人組にインタビューしていた。

中継が終わってユニフォームを脱いだら、夏が終わった気がした。高校球児もこんな気持ちになるのだろうか。一緒にするなと怒られそうだ。

「これ、洗って返すね」

「いや、島崎がしばらく持つていてくれたらいい」

また何か頼まれるかもしれないと思いつながら、ユニフォームをバッグにしまった。

八月二十五日、部活が終わって帰宅してから録画を確認した。

成瀬は誰かにプレゼントされたのか、西武ライオンズのマスコットのぬいぐるみを持っている。マスク広告枠の計画は頓挫したが、西武ライオンズの広報に一役買っている気がしないでもない。事実、わたしは成瀬がきっかけで栗山を知った。

八月二十六日もいつもの場所で映っていた。母は「もう景色みたいになじんでるね」と感想を述べた。

計画がはじまったところ、成瀬を模倣する人が現れると思っていた。そんな暇人はいないのか、ぐるりんワイドの視聴率に魅力を感じないのか、カウントダウン表示の隣のベストポジションを狙う人は現れない。

十九時過ぎに成瀬が訪ねてきた。

「新聞に載ったんだ」

成瀬はローカル紙「おうみ日報」を見せてくれた。西武大津店の閉店に関する連載で、近隣住民を取り上げている。成瀬は複数の登場人物のうちの一人だ。写真も掲載されているが、野球帽とマスクで顔が隠れてよく見えない。

〈近くに住む中学二年生の成瀬あかりさん（14）は西武ライオンズのユニフォームで西武大津店に通っている。「今年の夏はコロナでやるのがなくなっただけで、お世話になった西武大津店に通うことを思いついた。最後の日まで続けるのが目標」と話した〉
記事の中の成瀬あかりさん（14）と目の前の成瀬が結びつかなくて笑える。

「あと三回だね」

いくら自宅から徒歩五分とはいえ、同じ時間に暑い中通うのは大変だっただろう。残す平日はあと三日である。

「最後まで出られたらいいのだが」

⑥ 成瀬が珍しく弱気なことを言ったが、わたしは深く気にしていなかった。

八月二十七日は木曜日にもかかわらず館内からの中継で、総合案内所そばのメッセージボードを紹介していた。約二メートル四方のボードが時計台を囲む形で三枚設置されていて、どれも来館者のメッセージカードで埋まりつつある。

中継にはメッセージを書く成瀬が映り込んでいた。何を書いているか気になるが、あの中から探すのは至難の業だろう。

八月二十八日の中継は法則どおり館内で、五階の育ママセンターからだった。子ども向けのすべり台やおままごとセット、絵本が置かれた遊び場があるが、春先からコロナの影響で使用禁止になっていたという。子ども連れの女性が「ここは子どもが初めて歩いた思い出の場所なんです」とコメントする後ろで、成瀬はおもちゃ売り場に紛れて立っていた。

中継の最後、レポーターが「次回放送は八月三十一日、西武大津店の営業終了日です。最終日ということで、ぐるりんワイドはまるごと西武大津店からお届けします！」と告げた。ぐるりんワイドの終了時刻は十八時四十五分。部活が終わってからでも十八時三十分には到着できる。思いがけず巡ってきたラストチャンスに、行きたい気持ち湧いてくる。ユニフォームを返さなくてよ

かった。成瀬には月曜日の登校中に、最後の中継に行くことを伝えようと思った。

八月三十日には母と西武大津店に行った。ファイナルバーゲンの商品棚はすでにスカスカで、レジには
D。こ
んなに賑わっている西武大津店を見るのははじめてだ。母も「普段からこれだけ人がいたらつぶれなかったのにね」と閉店あるあるみたいなことを言う。

中継ではよくわからなかったが、入口のメッセージボードには琵琶湖の形が描かれていた。琵琶湖部分にはブルーのカード、陸地部分にはオレンジのカードを貼るきまりらしい。ざっと目を通してみたが、成瀬のカードは見つからなかった。「大津に西武があつてよかった」「初デートは西武でした」「たくさんの思い出がありがとう」「大好きな場所でした」など、一人ひとりの思いが伝わってきて胸が熱くなる。わたしもメッセージを残したくなって、「小さいときから何度も来ていました。今までありがとうございます」と書いて貼った。

八月三十一日の朝、いつもの時間に家を出ると、マンションのエントランスに私服姿の成瀬がいた。

「今日、学校休む」

わたしは一瞬、ぐるりんワイドに備えて学校を休むのだと思った。さすが最終日、気合いが入ってるねと返そうとしたら、成瀬はいつになく沈痛な表情をして「おばあちゃんが死んだんだ」と言った。

「おばあちゃんって、彦根の？」

「そう。今から家族であっちに行く」

「ぐるりんワイドは？」

⑦ 不謹慎かもしれないと思いつつも、訊かすにはいられなかった。成瀬は黙って首を横に振った。そんなこと訊くなと言っているようにも見えた。

「島崎には一応伝えておきたかったんだ。それじゃ」

成瀬はそう言い残してエレベーター方向に消えていった。

通常どおり登校したものの、ずっと上^⑧の空だった。授業中も成瀬とぐるりんワイドのことはかり考えてしまう。こんな事情では仕方ないという気持ちと、どうにかならなかったのかという気持ちが渦巻く。成瀬から万が一^⑨を託された者として、せめてわたしだけでも番組冒頭から出ようと思ひ、部活は途中で切り上げて帰宅した。

自宅で最後の中継に向けて準備をしつつ、Twitterで「西武大津店」を検索すると、閉店を惜しむ人たちの声であふれていた。今日も多くの人で混み合っているらしい。

検索ワードを「ぐるりんワイド」に変えると、今日の書き込みがぐっと減る。早い時期から成瀬を追ってくれているタクローさんは、金曜日に「ライオンズ女子ももうすぐ見納めかー」とつぶやいていた。成瀬は身内の不幸で行けなくなったと伝えたいところだが、本人でもないのに個人情報进行を明かしてはいけないと習っている。マスクに「成瀬は欠席です」と書こうかとも思ったが、熱心な視聴者でもない限りわたしと成瀬の違いはわからないだろう。

しかしせっかくだからマスクに何か書いておきたくなり、「ありがとう」と大きく書いた。

番組開始十分前に正面入口前に着いて、失敗したと思った。すでにたくさんさんのギャラリイが集まっている。最終日だからと出かけてきた人たちが、テレビカメラを見て立ち止まっているのだろう。

カウントダウン表示は記念写真を撮る人たちに取り囲まれている。人々はスマホで「あと1日」の表示を撮影していた。

ひとまず態勢を整えるためユニフォームを羽織ると、ギャラリイの視線を感じた。

「一ヶ月お疲れさまでした」

四十歳ぐらいの女性がわたしに近付き、西武ライオンズのタオルをくれた。さらには「一緒に写真撮ってもらっていいですか？」と問われ、なぜかツーショット写真を撮る。少しでも喜んでくれるならいいだろうと思っていたら、「そいつは偽者だ」という声があった。見ると、白髪の男性が厳しい目を向けている。

「いつも映ってる子と顔が違う」

まさかこんなところに熱心な視聴者がいたとは。皆勤の成瀬と比べたらわたしは出席日数が足りない。成瀬の添え物に徹したのが仇となった。

「あれは友達です」

「嘘言え！ そうやって誤魔化そうたってダメだからな！ 帽子だってかぶってないじゃないか！」

タオルをくれた女性はどうしたらいいのかわからない様子で立っている。成瀬の友達だと証明できるものはなにもない。成瀬の祖母が死んだ話をしてはもらえないだろう。周りは関わり合いになりたくないような顔で見ている。しかももうすぐぐるりんワイドがはじまってしまう。

「島崎！」

声をする方に目をやると、背番号1番のユニフォームを着た本物が横断歩道を渡ってくるのが見えた。帽子もリストバンドも身につけている。

成瀬は「間に合った」と言いながらわたしに駆け寄った。成瀬のマスクにも「ありがとう」と書かれている。

「何かあったのか？」

わたしは安堵で泣きそうだった。絡んできた男性はいつの間にか消えている。タオルをくれた女性もほっとした様子だ。

「あとで説明する」

わたしは青いタオルを成瀬の首にかけた。

中継が始まり、レポーターがギャラリーにマイクを向ける。いつもは一組だけだが、二組、三組と声をかけた。成瀬にも回ってくるのではないかと期待したが、四組目でインタビュは終わってしまった。撮影クルーはそろそろと移動をはじめめる。

「E」

「F」

成瀬が謝るとは思わなかった。

G

H

「親戚みんな、今日も行ったほうがおばあちゃんが喜ぶって言うから」

成瀬を送り出してくれた親戚一同に感謝した。

撮影クルーは一階の食品売り場、二階の婦人服売り場、四階の紳士服売り場と、西武大津店を振り返るのかのごとく上がっていく。ついていくのは成瀬とわたしと小学生グループぐらいだ。小学生から「なんで野球のユニフォーム着てるん？」と突っ込まれ、成瀬は「これがわたしの制服なんだ」と答えていた。

番組の最後は六階のテラスからだった。西武大津店を背に店長が立ち、カメラに向かってレポーターと話している。わたしたちギャラリーは店長の後ろで密にならないよう間隔をあけて立っていた。

「夏でよかった」

成瀬が言う。

「なんで？」

「暗くて寒かったら、今頃もっと寂しいから」

こうして成瀬は中二の夏を西武大津店に捧げたのだった。

九月三日、忌引明けの成瀬と、部活が終わってから西武大津店を見に行った。

人のいない西武大津店は急激に老け込んだようだった。三日前と同じ建物とは思えないほど傷みが目立つ。入口にあったSEIBUのロゴは剥がされ、看板はシートで覆われていた。片付けのために店員が出入りしているようだが、そのうち解体工事がはじまるのだろうか。

病気で入院していた成瀬の祖母は、ぐるりんワイドを見るのを楽しみにしていたそうだ。八月二十八日の放送まで「今日もあかりが映つとる」と喜んでいたが、三十日の深夜に容態が急変し、八月三十一日の朝、息を引き取ったらしい。成瀬の定位置だった

閉店へのカウントダウンが祖母の寿命じゅめいになってしまった。

「成瀬はおばあちゃんのために西武に通ったの？」

① 多少は意識してたけど、一番の理由ではない。こんな時期でもできる挑戦ちようせんがしたかったんだ」

わたしは成瀬がもっとバズるところを見たかったのだが、そこまで盛り上がらなかった。びわテレとぐるりんワイドの限界を感じた。

それでも何人かは西武大津店の閉店時の思い出として、成瀬を覚えていくくれるだろう。西武グッズをくれた人たち、絵を描いてくれた子ども、ツイートしてくれたアカウント、取材してくれた新聞記者、ぐるりんワイドの視聴者、すべてが成瀬あかり史の貴重な証人だ。

「将来、わたしが大津にデパートを建てる」

「がんばれ」

成瀬の発言が実現すると思いなながら、わたしは元西武大津店になった建物を見上げた。

【問1】——①「わたしはなぜこのことに気付かなかったのか」とありますが、「このこと」とはどういうことですか。次の中

から最も適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

- (ア) 人の口に戸は立てられないから、いったん広まったうわさを打ち消すことは難しい、ということ。
- (イ) 服装など身なりを気をつけて観察すれば、その人物が考えていることも見えてくる、ということ。
- (ウ) 過去の事例を参考にすることで、この先どうなるのかを予測することも可能である、ということ。
- (エ) 断片だんぺんと断片とをつなぎ合わせることで、おおよその全体像が見えてくることもある、ということ。

【問2】

—— ② 「胃のあたりから嫉妬しつとがせり上がってくるのがわかる」とありますが、どういうことですか。次の中から最も適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

(ア) 遥香はるかと瑞音みずねがテレビに映り、インタビュアまでされたのは「わたし」のおかげなのに、感謝の言葉も口にしない二人の態度を見たら、「わたし」は何だか腹が立ってきた、ということ。

(イ) レポーターからマイクを向けられなかった「わたし」は、インタビュアされたことで大喜びしている遥香と瑞音の様子を見て、二人のことがうらやましくてならなかった、ということ。

(ウ) 遊び半分で中継現場ちゅうけいげんばに来た遥香と瑞音みずねが、成瀬なるせを差し置いてインタビュアを受け、しかもそのことに浮うかれている様子を見たら、「わたし」は二人が憎にくらしくなってきた、ということ。

(エ) 毎日のように中継現場ちゅうけいげんばに来ているのに、成瀬と「わたし」は番組のレポーターから歓迎かんげいされていないのだと分かり、「わたし」はあきれると同時に激いしい憤いきどおりを感じた、ということ。

【問3】

③「当然インタビューのマイクは向けられない」とありますが、どういうことですか。このことに関する次の説明文を読み、 に当てはまる言葉をそれぞれ選び、(ア) (ク)の記号で答えなさい。

中継のある日には、必ず現れる女の子。ファッションも、気合いの入れ方も、 ライオンズのユニフォームを着て、両手にミニバットを持って。この子、何者って感じですよ。そんな成瀬の を目にして、レポーターはこう思ったのではないのでしょうか——「この子にマイクを向けたら、 をしそう。この子は、やめといた方がいいかな」と。そして、成瀬自身も、自分がレポーターの求めるキャラではないことを、よく分かっていたようです。成瀬はこう言っていました——「テレビ局はああいう女の子のコメントが欲しかったんだ」。

「ああいう女の子」とは、同級生の遥香と瑞音のこと。テレビ局が求めるのは、いかにも女子中学生らしい感想であり、多くの視聴者が同感できるような意見なのです。 や意見、と言ってもいいでしょう。

他人の目を気にせず、わが道を行く中学二年生——成瀬あかりは、だからレポーターからマイクを向けられることなど期待してはいなかったのです。

- (ア) 月並みな感想
 (イ) 奇天烈な少女
 (ウ) 堅苦しい応対
 (エ) 悪趣味な衣装
 (オ) 場違いな発言
 (カ) 普通の中学生
 (キ) 人任せな態度
 (ク) 一癖ある風体

【問4】

A

〜

C

に当てはまる語を次の中からそれぞれ選び、(ア)〜(オ)の記号で答えなさい。ただし、同じ記号を2度以上用いてはいけません。

(ア) おそらく

(イ) しっかり

(ウ) あいにく

(エ) どうして

(オ) もうすぐ

【問5】

④「自分から下りたはずなのに、成瀬に外されたような気持ちになる」とありますが、この時の「わたし」の気持ちはどのようなものだったと考えられますか。次の中から最も適当なものを選び、(ア)〜(エ)の記号で答えなさい。

(ア) 自分から西武大津店に行くことをやめたのに、その結果、成瀬が「わたし」との間にちよつと距離を置いたように感じられて、「わたし」は何だかさびしいような気持ちになっている。

(イ) 「わたし」を責めるのではなく、「これまで付き合ってくれてありがとう」と礼を言う成瀬の態度に、「わたし」はあきれるとともに、何だかはぐらかされたような気分になっている。

(ウ) いつも冷静で、決して熱くなりすぎない成瀬への反発から、「わたし」は西武大津店に行くのをやめたのに、成瀬がまったくそれに気づかないので、「わたし」は少しイライラしている。

(エ) 西武大津店に行かなくなったのは自分の意志によるものだ、と「わたし」は思っていたのに、実は成瀬によって排除されたのだと分かり、「わたし」はちよつと腹立たしく感じている。

【問6】

——⑤「成瀬の目が潤んでいたのでぎよっとした」とありますが、この時の成瀬の気持ちはどのようなものだったと考えられますか。次の中から最も適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

(ア) 成瀬のパフォーマン스에感動して、西武大津店までやって来た人がいたことに驚くとともに、自分の知名度が大津市内で急上昇したことを、成瀬は大いに喜んでいいる。

(イ) 五歳の女の子までが西武大津店の閉店を惜しみ、最後の別れをするために、こうして西武大津店までやって来たことを知って、成瀬は感動で胸がいっぱいになっている。

(ウ) 今でもたくさんの人に愛されている西武大津店なのに、あと一週間でその歴史に幕を下ろすことになるのだと思うと、成瀬は悲しくて悲しくて、涙が出そうになっている。

(エ) 勝手にやっていることなのに、それを応援してくれる人たちがいることを実感し、自分を気にかけてくれる人たちからの好意や声援を、成瀬は心からうれしいと感じている。

【問7】

——⑥「成瀬が珍しく弱気なことを言ったが、わたしは深く気にしていなかった」とありますが、成瀬が「弱気なことを言った」のはなぜだと考えられますか。次の中から最も適当なものを選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

(ア) 病気で入院している祖母のことが、気がかりだったから。

(イ) 暑い日が続いていて、自分の体力のことも心配だったから。

(ウ) 新聞に載ったことが、悪く影響するような気がしたから。

(エ) 西武大津店からの中継が、なくなるといふ噂もあつたから。

【問8】

D

に当てはまる語句として最も適当なものを次の中から選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

- (ア) 猫の子一匹いない
- (イ) 閑古鳥が鳴いている
- (ウ) 蟻のはい出る隙もない
- (エ) 長蛇の列ができています

【問9】

⑦ 「不謹慎かもしれないと思いつつも、訊かすにはいられたなかった」とありますが、この時の「わたし」の思いはどのようなものだったと考えられますか。次の中から適当でないものを1つ選び、(ア)～(エ)の記号で答えなさい。

- (ア) 祖母の葬儀が最優先されるべきであることは、十分に分かってはいる。
- (イ) 無茶な願いだとは思いますが、今日も西武大津店の中継現場に行つてほしい。
- (ウ) 西武大津店に行くことをあきらめられるのか、成瀬の気持ちを確認したい。
- (エ) こんなことになるなら、最初から無理な目標は立てるべきではなかったのだ。

【問10】

——⑧「上の空」、⑨「万が一」、⑩「見納め」の意味として適当なものを次の中から選び、それぞれ（ア）～（カ）の記号で答えなさい。

- （ア）突然とつぜんのトラブルなど、思いがけないことが起きた場合のこと。
- （イ）それを目にするのが、もうこれで最後になるということ。
- （ウ）よくなる見込みみこがないと考え、もう会わないようにすること。
- （エ）ことを成しとげようとする気力や意欲を欠いていること。
- （オ）他のことに気をとられ、目の前のことに注意が向かないこと。
- （カ）結果はどうなろうと、運を天にまかせてやってみること。

【問11】

E

H

に当てはまる会話文を次の中からそれぞれ選び、（ア）～（オ）の記号で答えなさい。

- （ア）お通夜つやは明日なんだ
- （イ）来ちゃダメだって言ったのに
- （ウ）そりゃ災難わざだったな。遅おそくなってごめん
- （エ）さつき、知らないおじさんに偽者にせものだって絡からまれたの
- （オ）ううん。来てくれてよかった。おばあちゃんの件は大丈夫だいじょうぶ？

【問12】

—— ⑩「多少は意識してたけど、一番の理由ではない。こんな時期でもできる挑戦ちゅうせんがしたかったんだ」とありますが、
 どういうことですか。このことに関する次の説明文を読み、a ～ f に当てはまる言葉をそれぞれ選び、

(ア) (シ) の記号で答えなさい。ただし、同じ記号を2度以上用いてはいけません。

コロナ禍かが拡大し、様々な活動が制限される中で、自分の夏休みを a としないうために、成瀬は一つの目標を立てました。八月になったら、土曜と日曜を除く毎日、西武大津店から「ぐるりんワイド」の生中継なまぢゅうけいが行われるので、その映像の中に映り込むというのが、成瀬の立てた目標です。自分なりの目標を設定し、それに挑戦することが、
b を過ごすことにつながるはずだと、きっと成瀬は考えたのでしょうか。

「ぐるりんワイド」が中継を行う西武大津店は、この夏、四十四年の歴史に幕を下ろし、八月三十一日で営業を終了しゅうりょうすることになっています。地域住民の c を支えてきたデパート。成瀬が生まれた時から、成瀬のすぐ近く（自宅から徒歩五分）にあったデパート。毎日、西武大津店に通うという成瀬の行為こうゐは、身近で親しい人が亡なくなるうとする時、その d を一緒に過いっしょごそうとするのと同じような意味を持つものであったと言えるかもしれません。

そして、「一番の理由ではない」と成瀬は言いますが、成瀬が e を案じていたことは間違まちがいなしでしょう。一番の理由ではなく、二番以下の理由だっただけです。大津と彦根ひこね。めったに行けないほど離はなれてはいませんが、コロナ禍が拡大していく中、感染かんせん拡大防止のために、病院では面会やお見舞みまいが制限されたり、禁止されたりしてきました。でも、「ぐるりんワイド」という番組を通して、成瀬は毎日のように f に顔を出していたのです。それは、成瀬流の「お見舞い」だったのだと言ってもいいでしょう。

- | | | | | | | | |
|-----|----------------------------|-----|---------------------------|-----|-------|-----|-------|
| (ア) | 傷心の日々 | (イ) | 祖母の容態 <small>ようたい</small> | (ウ) | 大津の未来 | (エ) | 日々の生活 |
| (オ) | 希薄 <small>きはく</small> な日々 | (カ) | 祖母の病室 | (キ) | 西武大津店 | (ク) | 安心や安全 |
| (ケ) | 濃密 <small>のうみつ</small> な時間 | (コ) | 最期 <small>さいご</small> の時間 | (サ) | 大津の全域 | (シ) | 社会的立場 |

【出典】

- Ⅰ 帚木蓬生『ネガティブ・ケイパビリティ』(朝日選書、二〇一七年) 一八五～一九三ページ
- Ⅱ 宮島未奈『成瀬は天下を取りに行く』(新潮社、二〇二三年) 二一ページ～三六ページ

